様式第１号　政務調査費収支報告書　（条例第８条①、②）

平成２５年　２月２２日

上ノ国町長　工　藤　　昇　様

議員名　石　澤　一　明　印

平成２４年度政務調査費に係る収支報告について

上ノ国町政務調査費の交付に関する条例第８条第１項（第２項）の規定により、別紙のとおり平成２４年度政務調査費収支報告書を提出します。

別記様式

政務調査事業報告書

１　事 業 名
　　調査研究事業

２　事業内容
（１）平成２４年１１月１７日
　　鹿児島県始良市加治木町友上4-15-249
　　(株)わくわく園
（２）平成２４年１１月１８日
　　鹿児島県肝属郡南大隅町根占川北3912
　　(株)シーアグジャパン
（３）平成２４年１１月１９日
　　鹿児島県肝属郡大隅町佐多伊座敷3846
　　(株)ウエストコム鹿児島工場

３　成　　果
（１）桑の葉を使用した６次産業について
　　加治木町は、古くから養蚕が盛んな町で桑の葉特有の酵素を利用し健康飲料としてのお茶やサプリメントを販売。
　　桑の葉の栽培については、農薬・化学肥料を使用せず栽培し６次産業として経営している。

（２）ハマグリの陸上養殖について
　　日本で販売されているハマグリの９０％が輸入物。通常、中国産のハマグリを海岸にばらまき、餌を与えずに一定期間畜養してから出荷されますが、この場合、餌をあまり食べないため体内に溜まった雑菌類が体外に排出されず残留したり、畜養池の水質による影響も心配ですが、陸上養殖という独自の技術により、中国産のハマグリに微細藻という自然の餌を与え、きれいな海水の中で丁寧に育て、養殖している間に体質が改善しフンと一緒に雑菌類は体外に排出され、安全で高品質なハマグリになる。
　　また、砂なし水槽で育てることから、貝に砂が入らず、調理の際には砂抜きの必要がなく貝をこすり洗いするだけで手軽に食べられ、鉄分、カルシウム、亜鉛、マグネシウム、タウリン等、現代人に不足しがちな栄養素を補給する事ができます。
　　さらに、陸上養殖であることから、高齢の漁業者でも負担が少なく作業出来ると思われ、上ノ国でバカ貝の陸上養殖が出来ないかと考えた。

注）１　事業名には収支報告書の、２支出の科目区分により記入する。
　　（例～○○調査研究、○○研修、○○会議、○○地区広聴・・等）
　　２　事業内容及び成果には、具体的な内容とその成果を記入のこと。

別記様式

（３）サメ肝油を使用した石けん製造について

佐多岬オーガニクスの工場は、佐多岬近くにあり海と山に囲まれ、亜熱帯植物が生育する北限に位置し北緯３１°線上にあります。

佐多岬近辺に自生する植物や自社無農薬栽培されたレモングラス、天然海塩、オーガニックオイル、溢れだす渓流水、それらの自然の恵みを最大限化粧品に使っています。今、上ノ国町の海で、アブラツノザメが大量に水揚げされております。出荷する際には、肝臓油と皮を取り除き、むき鮫にして出荷していますが、取り除いた肝臓油は廃棄処分されています。その肝臓油を利用し、石けんがつくれないかお願いしました。

その後、肝臓油を送り試作してもらいました。結果、石けんがつくれる事がわかりましたが、臭いがある為、商品化にはならないとの事でした。サメの肝臓の利用には、その特有の魚臭が障害となり、炭酸水素アンモニウムで肝油を洗浄すると、脱臭効果が高いことが明らかになった。また、肝臓を７０℃の乾熱下に置き肝油を滴り落とし、食塩水やグリセロール溶液に捕集すると魚臭が非常に低減され、かつ酸化しにくい肝油が得られた。この肝油を使用し、石けんが商品化になればと思っています。石けんを製造販売出来るようになれば、今まで廃棄処分されていた肝臓油が収益につながるのではと思っています。

<u>サメ肝臓から肝油の新規調整法</u>

サメ肝臓
↓
乾熱（７０℃）
↓
５％食塩又は１０％グリセロール捕集
↓
上層
↓←脱水剤添加
脱水剤分離
↓
肝油

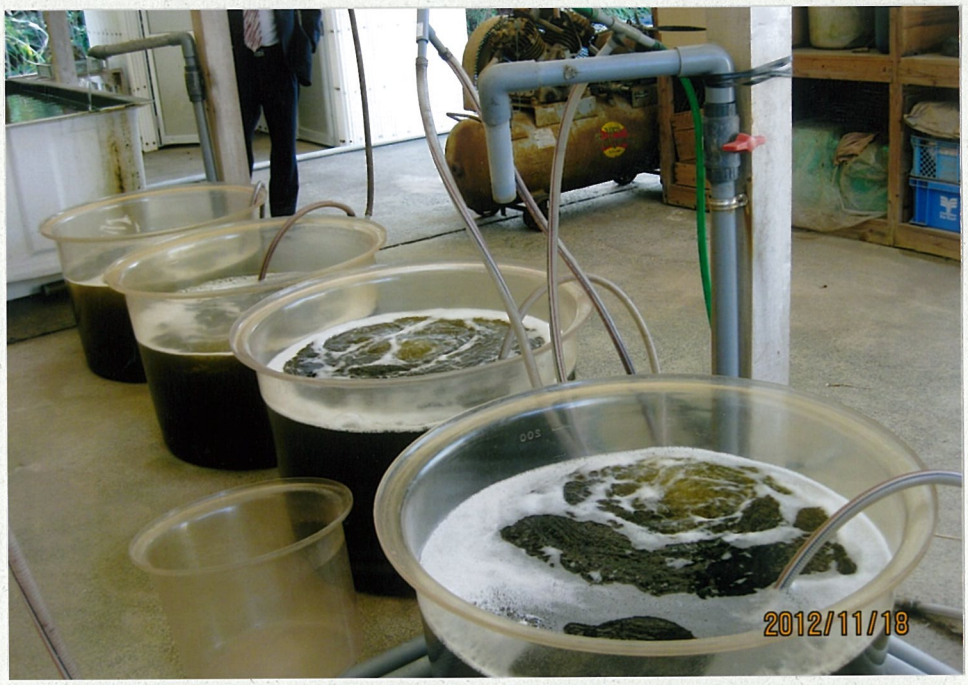
注）１　事業名には収支報告書の、２支出の科目区分により記入する。
（例～○○調査研究、○○研修、○○会議、○○地区広聴・・等）
２　事業内容及び成果には、具体的な内容とその成果を記入のこと。

平成２４年１１月１７日

株式会社わくわく園　桑の葉を利用した６次産業について

平成２４年１１月１８日

株式会社シーアグジャパン　ハマグリの陸上養殖について



平成２４年１１月１９日
(株)ウエストコム鹿児島工場　サメ肝油を利用した石けん製造について